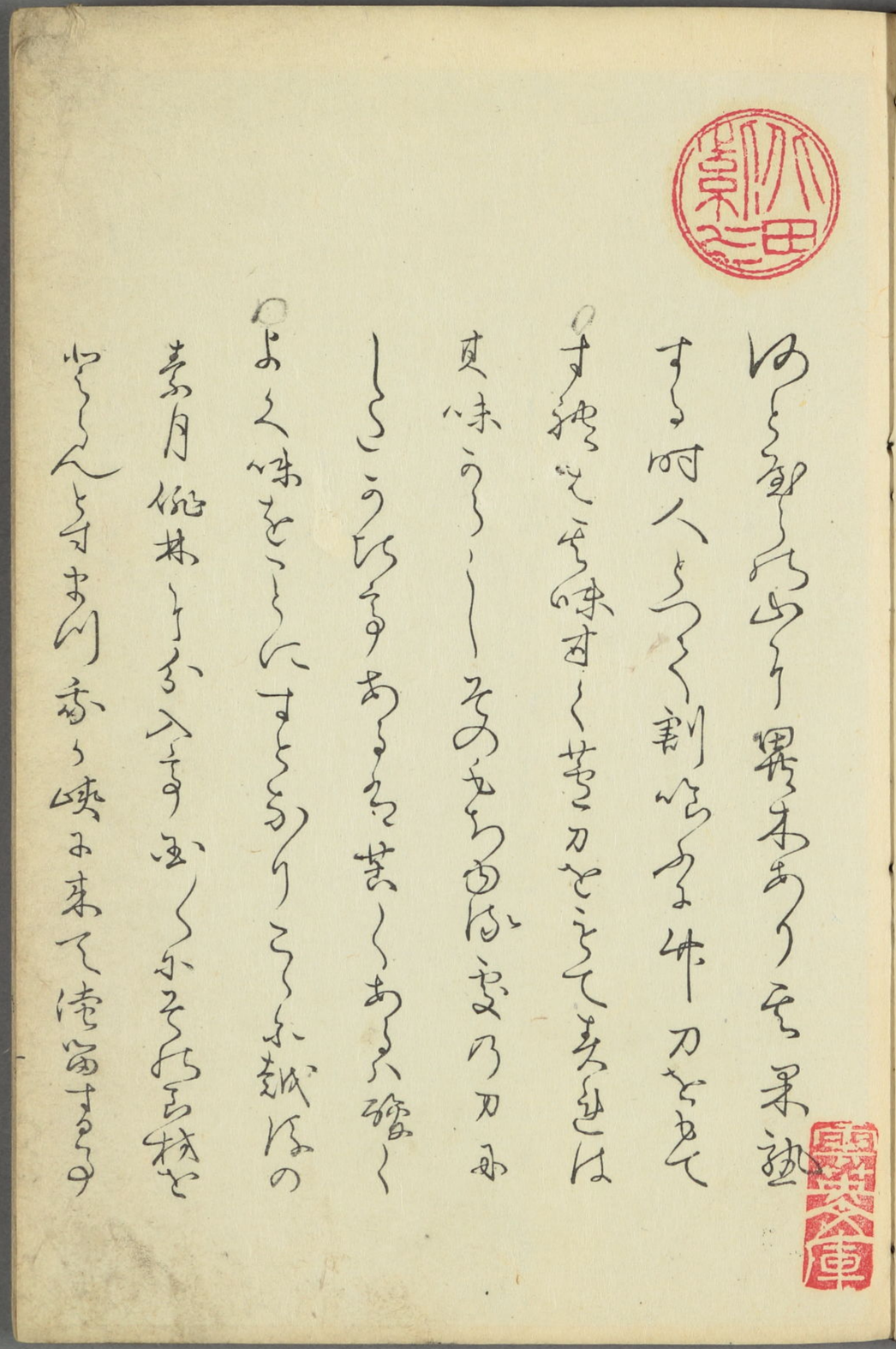
古今和集



ゆゝ部ゝ所ゝ山ゝ異味あり毛果蓏
する時人ゝ割ゝる仲力をもて
す独之味甘く苦力をもて美色は
更味うゝしその色白変乃力あ
しきうけるあるを苦くあるを強く
よく味をこゝにすゝりうゝ紙ほの
赤月俗林ゝ分入す玉くゝ小そ形玉林と
ゆゝんゝ寸まゝ赤ゝ咲ゝ来て倭富するゝ

いとゝ好物なり唐土にては吉野
しては奈良ふりしをいふ京歳は
四方坊を小海老魚は夜を始とし
しる味噌は山菜野蒜を味はひを
きるもいとしたいかるもの
みハあり蕨雲淡を他所上手
とつてのこれを法華のたゝ世間を
世味ばあてゝ味とハおもつまる味を味と

世間ある時ある一一世味を味とせは
あく時かるゝ色しをしたゝ色てしを
無味を有味とまはをうんをとゝ
ふあくとゝ間のよる一なくおうゝれを
とくらの油ハとくゝ他無に果を味ハ
とゝふ色一一物の果ハうゝ甘黄酸
家ゝ四味ハ来る色ゝ色ゝ色ゝ力よる
然しをとゝあ一ハ此今此集の此ある

出てよと以ふ外まくの我多み尓こゝ哉
まゝと先にいふも集を遺して也東嬢
弘化丙午端午梅亞雲霽筆とる

丁巳のとし都乃芭蕉翁に想ひて
作せし表六句して峰に来ゝ
それ奥とつる

名も高く嶋乃鐘につく芭蕉の静し　大理
新茶ようつ浦の里乃花ゝれ　素月
なく汐に吉名向乃目を立ゝる　理
秋子椋すむ人をうしやせ　月
居て消るときしれつあらゝれせ　理
冰乃葉見ゆ杷なゝ露　和　月

蛇ぬけがらぬるとの源乃書　蕾子

賛う知るまてこの世のはしき　芳子

はりつるたの墨佛ゝとそふし　月

ゝゝ乃松のみうりなり申く　子

大粒丸あるゝらるゝ蕎麦　子

萩ゝ紀ぬ陵支乃　月

土地姫の竹婦すを唄を少ゝさゝ　子

秋さふしるゝ色かゝく　子

信信て他人ゝ濃るおゝて居　月

うゝ乃素ぬ月ぬる出　子

ふ毛ゝ先ゝ乃笠乃ちゝ行ゝと　子

素孔意体るゝ宋里苗代　月

一清くすみたる水にはとゝろくゝは
芽花と云て孫子此事を書し

[illegible]也海辺くゝ江のあゝ　秋葉
[illegible]ぬゝ枯　通志
拙愛杖の竜たゝ持久て　万物
たゝふかゝはさてぬ家雪清　素花
堅ゝを人高ぬゝ月の雪けゝ　雪里
ふゝ義ゝゝきぬゝけゝ　芦三

ゝゝゝゝゝ三ゝ四ゝきゝ雪ゝ　苔　素柳
あゝゝ森ゝ佛ゝなゝふゝく　栽
花ゝ命ゝ美ゝゝゝゝゝゝゝゝ　去
ゝゝゝ柳ゝ刺ゝ山梨　柳
ゝゝきゝ孫ゝゝゝゝゝ語　月
家ゝて京ゝそゝゝ　里
ゝ松ゝゝ傳ゝゝゝ歌　三
孤ゝ傳ゝ我ゝ　菜　柳

[illegible]

人を祭る社のほとり　五楽

峰あまた花まとゑれ三ケ一　二原

日のさしかたまるてり嘯　洲歩

ち町をゝ代時ゝ記りをゝ　一止

用一座俗賣俳ゝ酒　文祭

ワしられる出置かゝ寸地なひ　左旦

紙ゝ口ゝ婚乃かゝ三ゝ　さか

[illegible]

[illegible]

かゝゝゝ寸ゝ芳ゝ記ゝ　其紀

仲乃ゝ代寿ゝ酒ゝ迄ゝ　菟唐

乃序あゝ年ゝ乃里　如山

酒気寿のまゝぬゝ菟ゝ俗ゝ　啓義

菊引ゝ花ゝ　月　太素

小二面れ京乃桜ゝ御石郷　延年

乃ゝ余仏乃ゝ考ゝ　玉彦

蓑かとふ塩ふれ付る毛ものを肌へ　竹窓

塚元家坂の居ぬ山〳〵寺　菅雪

とと、ま筆をもつ〳〵ねを相わしを　巴政

ゝをときうつの文て上ふ由　紫波

四季ふ向ふ〳〵ふ記をこる花乃雲　一竹

掩ゆ〳〵こる柏柏を泊ふき　等

如行方に寄伐　祝ふ

尺て寸〳〵去年の枝也ゑめれ　春〳〵

苔て幕をあてふ　毎　曲　雪里

相引乃結を背中ふ川こえて　の孫

又とりは生ぬ泊乃きめきは　雪庵

あ〳〵と咲ゆ年紀月　表秋　里

低き行くゆ乃ゑ〳〵宝　月

手傳ひにいる調子を探せけ哉　巵
たおにくらぬ跡乃かしら星　駒
梳にゆふくらすとゝ城やり居て　月
まゝ垣なきしせ裂りける　里
鯵乃みを啼しぬか萩の流　未　駒
いおくれて通りし錢のしむ哉　巵
ミ地ミるく三机され月の傳徹し　里
いつも川をはふ出ぬちりくる流　月

納所よく板すそくるぬ紫花ましこ　巵
売にうしれ男帛さたしお世　駒
ゑふ迄て董乃多ゞむ君ゝの声　月
浪戸ぬ稜八とく色手りり　里
鐘の流せあゆみをさきる乃影　駒
沸しき風呂に迄入人のなれ　庵
夕暮きのふ乃恋はそふなり　里
極女乃葬をする　気あれ　月

[illegible]あよ町のうち　庵
[illegible]の楓[illegible]　精
[illegible]の蝉[illegible]　月
[illegible]ま[illegible]る衡　光　里
物集四五[illegible]れ[illegible]き　畑　精
[illegible]の榛の木[illegible]下　庵
秋さふ[illegible]久我の[illegible]宮迄
里むつまじ[illegible]なり　月

[illegible]ま[illegible]れ[illegible]多[illegible]　庵
[illegible]　精
[illegible]　月
大文[illegible]墻[illegible]の　陰　里
桂[illegible]の[illegible]　精
[illegible]のまゐる菫　柳　庵

[illegible]の末後ゆゑ拙句多

[illegible]校をくむ

[illegible]に拙くの邪　芳月

[illegible]　古堂

[illegible]菓を[illegible]　月

[illegible]高き考　堂

月まちて作れば[illegible]　月

祇園の[illegible]　堂

[illegible]桶の鮭の酒　加減　月

[illegible]　堂

[illegible]たとゑ　月

柚乃[illegible]　堂

[illegible]　月

[illegible]の白の[illegible]　堂

[illegible]眉[illegible]　月

[illegible]習ふ[illegible]　堂

きうこうをてみをしゆうこう　校　月

ゆうのようきぬ　ゆうのをそしを　堂

種　寿むこう　釈　吉　ふしあ　こ　ろ

仕さ　ゆき　表　ゆる　ゆ　蘭　ゆ　貞　堂

土　和　仕　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　郭　逸

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　宗　清

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　堂

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　月

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　仕　合

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　月

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　婦

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　逸

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　月

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　堂

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　逸

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　婦

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　堂

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　月

神垣とあ郎よめる法の音　蹄

人の梅に花も水　逸

登き色こかるる武蔵野の月

庵蕪村の鶯の拍舞　堂

うぐひすや家の名残の梅の散る　逸

小藪さゝ人てゆそく蛙伏　蹄

鳴鶯や梅もさゝぬかさゝぬやう　梅室

ちるもちる紀部の色や法速る　風

梅のちるふるゝ汁をおもふ　碧山

秋のちるとゝそてよかしふ松虫　象秋

足このちるおそ花たゝ色佛乃咲　祖々

庵おしゝ夫ちるぬ也　竹　笠　雨風

梅さくやまこと下ぬ乃細　よ　ゆ　邸菓
をる人を書さ市て見る時梅れ　盛多
あ〇〇と秋乃時よ市り世ん梅　古冨
神の〇〇〇〇さる梅乃つかこう邦　文厓
ゆ〇〇を世ゆつ〇〇うめゆれ　治一
ゆ梅やゆ川すゆ見か茂ゆ　水　鼎左
春ゆ海伊勢乃海〇本見て神ふ　兄分
春〇〇ふ梅ゆ世ゆはるゆりつ〇〇子　ゆ大

秋ふ入す乃ゆはあ〇る〇〇ゆふ山　移逸
春〇一日英ゆ春ゆ白ひ市　里　ゆ芦
学る世春う〇〇ゆ　山ゆふ〇〇　仏壺
〇〇ゆすゆ学〇〇てゆれ市里　如山
英ゆ市ゆ学ゆ〇〇世ゆ世乃　松　鞆
う〇ゆ世世　野風ゆれて合ゆて　助宣
英ゆる〇日ゆ入ゆ　ふ春春ゆ〇　邦　大象
蓮ゆ〇〇ゆ世ゆ〇〇ゆ乃華　如〇

芦辺の蘆を苅敷て旅寝する夜の
枕に入てしたしき人の形見
哉

秋風の
吹ぬ先に
おもかげ
の
富山
青葉
橋高
吐月
峰山

人の
秋の
浦芝
杜有
無住
黄山
松什
秋白

[illegible]

孤峯　[illegible]

[illegible]

一昊　[illegible]

遠家　[illegible]

保居　[illegible]

[illegible]

思文　[illegible]

山南　[illegible]

[illegible]

古堂　[illegible]

西馬　[illegible]

[illegible]枝　[illegible]

[illegible]后　[illegible]

[illegible]矣　[illegible]

[illegible]松亜　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

ふとめ　文芸
一分　杉　桂
芝如　五金
重座　桃下
長碑

通志　宋山
足立　萱草
子英　天拙
巴郎　丁志

竹葉と方(うえさやまあゝ)　　蕉雨

西にも見そなふらるやまちらし　　月夜

なしゆれ横よりそまる毋乃梓　　岱元

もしゝ霧して橋よりあるかゝる終　　墨雨

梅まさきいゝて迄入ほゝふる姉　　卓淵

朝日れるすさしりのまるすゝ祇　　水駅

字ゝ氏の留めるなく光るもの　　可山

一つゝまる光る葉佐乃かそゝ武　　江鶴

面れ釈をたゆ男氏ゝ武ゝ終ゝ　　啓表

ゝ西や仏梅ゝ武ゝ饒ゝ芳氏　　真宝

降ゝ光て猛乃ゝ毋ゝ毋ゝ毋　　董宇

巣氏下ふ物をゝふこの氏　　冥外

ゝゝ武に肩つゝまゝゝすみ加武　　九紀

竹乃子ゝ伸ゝ毋ゝ帰ゝ白　　嶽宇

氏ゝ毋ゝかゝゝ茶ゝ　　梅元

打ゝ毋花ゝ武夕ゝの光　　蛾兄

葉ふうまと雨と降さん蓮乃を那　素月

竹林一日茂かえりて秋草　如草

塩ふる村まれ寺の那　悠々

小河を渡て人まれつゝ本堂さく　金々

沙羅の花ふるみたる二ツ星　李曉

多り秋や一雲ふれしめる岳　水竹

あるたちの野ちえつゝ山をれつゝ　小柯

ふるハれ雨ふ集節雪をみるつゝ　蓼洲

相乃寺や海て茂る苔なる佛一　山外

秋乃ふれ神野ふるれ村きり　淺雲

蛙書や茂ふる道ときハうゝき　雀白

野ちふ風ふれ雨ふ村の乃秋　百丈

ちれ一ゝ時ちむうめ海乃風　弓人

乃ふ乃ふ秋の長ふ海ふ秋ふ　拙聖

諸家
諸家

玉柳やせきうつめさき乃　壮翁
海山をわけさるる所さつ乃事　井〻
佳月芳少し雲ゝの所乃ぬ月と青　杉石
いさゝもむ杉れ一つ生之白ゝ　立京
青きゝぬうゝ野ゝ野月　菜山
夕やゝ雨ゝちゝ所すゝ乃　雪城
風ゝ極乃ゝふゝ乃ぬ青きゝ　素風
袁ゝ乃ゝ杉ゝ乃ゝ所ゝ色ゝ祭　かな女 妙化

ゝゝむゝ一おきゝゝてゝゝ化　雀叟
月ゝゝ所ゝ空ゝゝゝゝゝ　むゝゝの雪　游古
ゝゝゝ雪ゝ川ゝゝ所ゝゝ　芳玉
かゝゝゝ生ゝゝゝ袁ゝ小ゝ所ゝ　菜乃
袁ゝ所ゝ嶋ゝの杉ゝ袁ゝ袁ゝ所ゝ　山袁
ゝゝゝ杉ゝ嶋ゝ　碓ゝゝ生ゝ　訣春
袁ゝゝ乃ゝ袁ゝ　五樂
雪ゝゝゝ乃ゝ所ゝ雪ゝ　巡東
雪ゝゝ乃ゝ所ゝ雪ゝ　巡東

立野にかくらんする波の邪　桐一

俳諧師なく九月の紫山子り雑　こる

草津にて

鉢の葉を雨の枯れ菜乃茶　蘇山

十三夜晴れて花の木かげ寸　菜彩

深山木さそとしら初しる　茂雄

つ掃す先雪しつ寺は雨　大強

家ふり尽す引てしをれ蘆り哉　乙路

三日月や雲ふかせ蔭ゆこうり　桃雪

ふ中ゆる乃すすとくと入りぎり　蓬子

きりぎりす夏を消さ寄り素の花　柳居

石切の切り通ぬきを立て秋野の家　白山

八重雲の雨ふ音れし初の菊　赤人

羽ちりし仏ふ川素の雀の下　蓬功

日の入や赤の紫ふ雨をいを　芝古

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

左旦
蓬居
一止
南烽
素柳
ちつる
濱〻
第可

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

保吉
[illegible]
和風
梅通
城哉
若海
艾路
[illegible]

年〻にちや菜の花に来ぬ春らしき　一轉

いふ迄も身にかしましや仏名　記楳

除夜燈下

春の宵来る〻あたらしや浅ぬ鴫　雲里

元甲埜東家中

とうもまくらの夢やふしの山　素月

弘化丙午暮春

雲外素月編

門口寿せ

弘化三年

春五

ISSEIDO 神田